

資料

ミヤコノロ *Capreolus miyakoensis* の全身骨格の復元高 乗 祐 司¹・中 田 悠 皓²・長谷川 善 和¹¹ 群馬県立自然史博物館² 川口市立医療センター

キーワード：復元, ミヤコノロ, 宮古島, 偶蹄類, 沖縄

Key words: Reconstruction, *Capreolus miyakoensis*, Miyako roe deer, Artiodactyla, Miyako Island, Okinawa

はじめに

ミヤコノロは大塚弥之助らによって最初の報告がなされた(大塚, 1941)化石偶蹄類の一種である。大塚は本文の中で *Capreolus tokunagi* という新種にするつもりであると記述している。しかし、種の Diagnosis が欠けており、記述が的確なものではないと判断し、1973年に沖縄県宮古島の天川洞から採集された標本に対して、大塚裕之が *Capreolus miyakoensis* として改めて新種の記載を行った(長谷川・大塚・野原, 1973)。

1982年から84年にかけて同島上野村のピンザアブ洞穴で大規模な化石発掘調査が行われ、その際に大量のノロジカ化石が採集された。後にこれらの標本を甄百鳴(中田悠皓)が研究し、報告を行った(甄・長谷川, 1985)。

1998年、群馬県立自然史博物館では第5回企画展「琉球の生きもの」の開催にあたり、その一部に琉球列島の古生物を展示することが計画された。そこで、琉球列島の第四紀の陸上動物を代表するシカ類であるリュウキュウジカ、リュウキュウムカシキオン、ミヤコノロの全身骨格復元を展示することとなった。前二者についてはすでに復元されているが、ミヤコノロについては今回の復元が初めての全身骨格復元となった。そこで、本論ではその復元の内容をごく簡単に紹介したい。

復元の方法

今回の復元では、上記のピンザアブ産の標本を元にしてミヤコノロの復元を行った。

ピンザアブからは総計37頭(もしくはそれ以上)を数える標本が産出した。この中には幼体から成体まで年齢の異なるものがバラバラになって混在していた。筆者らはこの

データを元に、合名会社中馬工房の中馬洪治代表社員、ならびに北海道大学獣医学部の大泰司紀之教授の協力を得て、大胆な骨格復元を行った。

ピンザアブ産のノロジカ化石は一体分揃ったものがないことから、各部分の中で最大のものを選び、まずはじめにニホンジカと比較を行った。しかし、大きさの差がありすぎて、本州以南のものは利用できなかった。そこでノロジカの脛骨の大きさに合致するエゾシカ個体の選択を大泰司氏に依頼し、その個体と比較しながら、概ねエゾシカの個体に合う部分骨を選んで復元を試みた。

仙椎などいくつかの部分は手を加えたものがあるが、各部分の最大のは選択されたエゾシカ個体の大きさとかなりよく合致した。そのため、ミヤコノロの化石に無かった部分はエゾシカ個体を補助的に利用し復元を行った。

復元された全身骨格を図版1に示した。同図版のうち、濃い色の部分がノロジカの化石を使用した部分となる。その部分は、角、前頭骨、上顎骨、下顎骨、頸椎の後半部分、前位胸椎の一部、腰椎の後半、仙椎、肩甲骨の一部、上腕骨から遠位の大部分(末節骨を除く)、寛骨、大腿骨、脛骨、距骨、踵骨などである。

また、復元されたミヤコノロの主な計測ポイントでの計測結果は下記のとおりである。

| | |
|---------|--------|
| 全長 | 170cm |
| 体高 | 130cm |
| 肩甲骨高 | 97cm |
| 腰部での高さ | 98cm |
| 角の左右最大幅 | 35.5cm |

ま と め

現生のノロシカ *Capreolus capreolus* は中国東北部など、

ユーラシア大陸北部に生息しているが、体の大きさをはじめ、角についてもミヤコノロに比べると極めて小さい。

ミヤコノロのように大型の種類が宮古島のような亜熱帯気候下にある限られた場所に存在することは、動物地理学上注目される。

本論ではとりあえず、絶滅種の一つとしてのミヤコノロの復元個体の情報を記録にとどめることとした。この復元骨格は、現在沖縄県立博物館と群馬県立自然史博物館にそれぞれ雄の個体（同一の型による）1体ずつが収蔵されている。

謝 辞

ミヤコノロの復元にあたり、沖縄県立博物館のミヤコノロの原標本を利用させていただいた。北海道大学獣医学部の大泰司紀之教授には多忙な中、比較資料にエゾシカ骨格の選定をしていただいた。また、合名会社中馬工房代表社

員中馬洪治氏には復元骨格の製作にあたり、様々なご協力をいただいた。

以上の皆様に厚く御礼申し上げます。

参 考 文 献

長谷川善和・大塚裕之・野原朝秀

1973 宮古島の古脊椎動物について（琉球列島の古脊椎動物相—その1）。国立科博専報(6)：39-52。

大塚弥之助

1941 琉球群島に於ける哺乳類化石の研究。

日本学術振興会第6常置委員会抄録(3)：17-27。

甄 百鳴・長谷川善和

1985 宮古ピンザアブ洞穴産出のノロジカ。沖縄県文化財調査報告書第68集。

ピンザアブ・ピンザアブ洞穴発掘調査報告，沖縄県教育委員会，p.33-73。

Abstract

Reconstruction of a Miyako roe deer skeleton, *Capreolus miyakoensis* (Artiodactyla : Cervidae).

Yuji TAKAKUWA ¹, Hiroaki NAKADA ² and Yoshikazu HASEGAWA ¹

¹ *Gunma Museum of Natural History*

² *Kawaguchi Municipal Medical Center, Saitama*

A reconstruction of the skeleton of the fossil Miyako roe deer, *Capreolus miyakoensis*, is described. In 1973, Dr. Hiroyuki OTSUKA, Kagoshima University, described this species. From 1982 to 1984, Okinawa Prefectural Government, Education Department organized the fossil excavation in Pinza-Abu cave on Miyako Island, Okinawa, Japan. In 1985, Zhen and Hasegawa reported that the fossil bones of the Miyako roe deer had originated from 37 or more individuals.

For the fifth special exhibition at the Gunma Museum of Natural History, we reconstructed the skeleton of the

Miyako roe deer. In this reconstruction, we referred primarily to the Pinza-Abu specimen. The Miyako roe deer was very much larger than presently living roe deer. In reconstructing the skeleton, neither the living roe deer, *Capreolus capreolus*, nor the Honshu sika deer, *Cervus (Sika) nippon centralis*, could be used for reference, because they are too small. The Ezo sika deer, *Cervus (Sika) nippon yezoensis*, is most similar in size to the Miyako roe deer. Therefore, with the exception of a few parts, the lost elements of Miyako roe deer were reconstructed after referring to this deer.

高栗祐司・長谷川善和

群馬県立自然史博物館：〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1

Yuji TAKAKUWA, Yoshikazu HASEGAWA

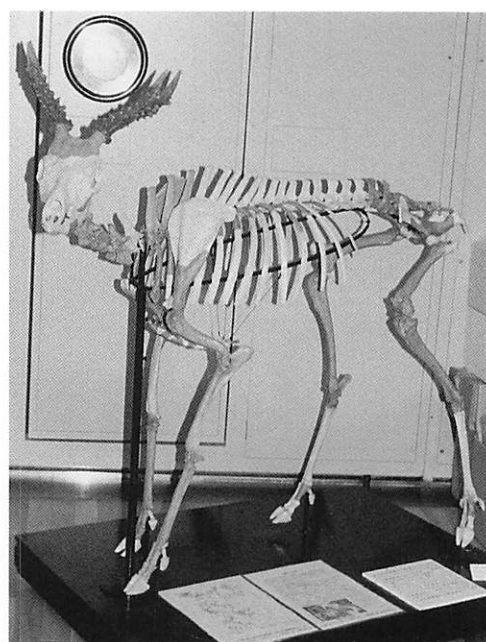
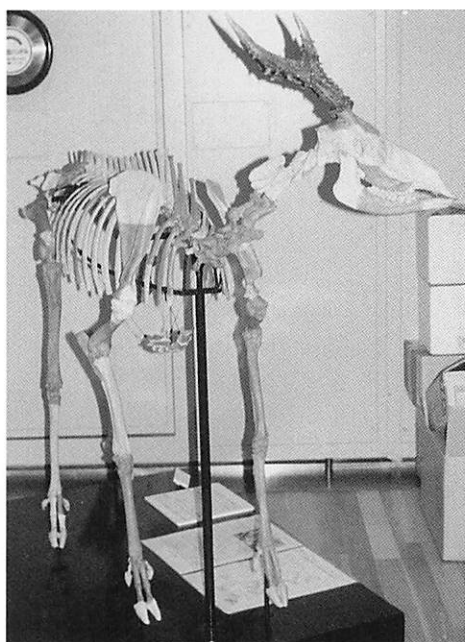
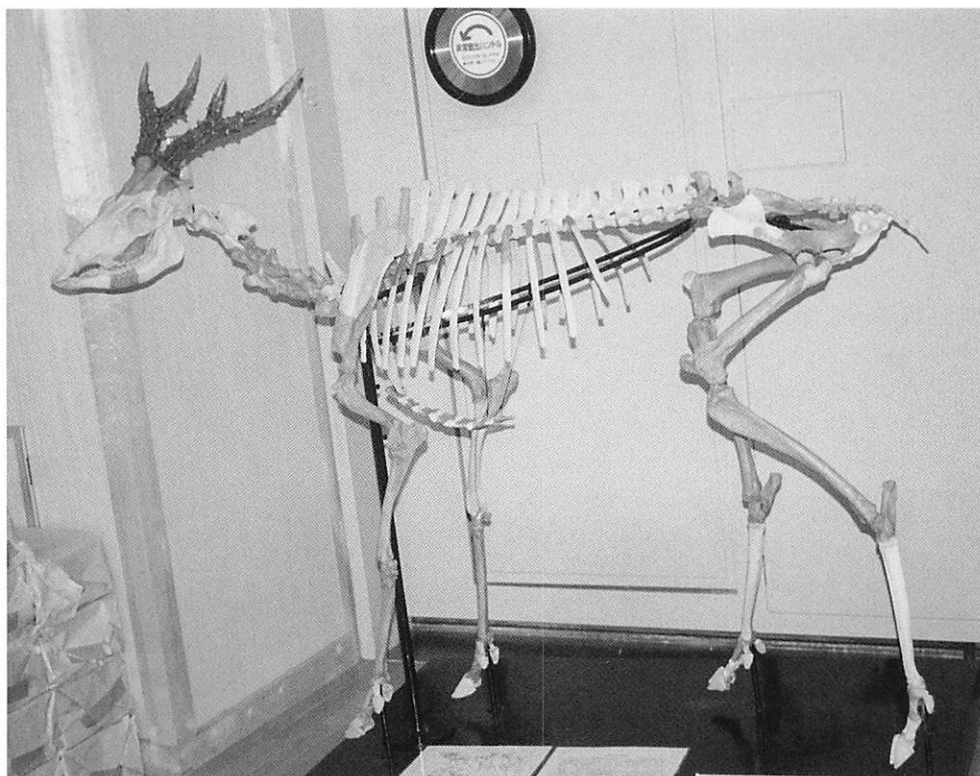
Gunma Museum of Natural History : 1674-1, Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma, 370-2345, Japan.

中田悠皓

川口市立医療センター：〒333-0833 埼玉県川口市西新井宿180

Hiroaki NAKADA

Kawaguchi Municipal Medical Center, Saitama : 180 Nishi-Araijuku, Kawaguchi, Saitama, 333-0833, Japan.



図版1 復元されたミヤコノロ *Capreolus miyakoensis* の全身骨格 (群馬県立自然史博物館蔵)